

## 島根県における新生児聴覚スクリーニング

いずみ 泉                      のぶ お 夫<sup>1)</sup>                      ふく しま あき ひろ 博<sup>2)</sup>

キーワード：新生児聴覚スクリーニング，島根県，再確認検査，  
早期療育，遅発性難聴

### 要 旨

島根県では新生児聴覚スクリーニング（新スク）実施医療機関は2001年より急増し、2010年には県内全出生児の90%が受検した。最近2年間の要再確認検査率は自動聴性脳幹反応（AABR）0.77%，耳音響放射法（OAE）1.67%，全体で0.95%（95名），1ヶ月健診時の再確認実施の報告は57名（60%）で、その55%がパスし、再確認の意義は大きい。AABRの上記率0.5%未満を目指したい。松江ろう学校の最近4年間の新規継続療育児28名中68%が新スクを経た。新スクを経た重度難聴の当初の8名中4名は補聴器を6ヶ月齢までに装着し、2名は事情で遅れ、2名は新スクをパスし遅発性であった。両親の精査までの不安への対応も含め、フォローの充実を願う。公的補助も検討されてよい。

### はじめに

新生児聴覚スクリーニング（新スク）は先天性難聴の早期の発見と療育開始を目指し、先行国では1990年代の試行の後、例えば米国では2005年には出生児の95%が受検した<sup>1,2)</sup>。

日本は2001年からの厚労省のモデル事業に引き続き2007年度から各自治体や医師会が推進することになり、島根県も2008年12月に手引きが作成された<sup>3)</sup>。米国はフォロー態勢が不十分で、その構築を急いでいるが<sup>2)</sup>、県の手引きは市町村・保健

所による綿密なフォローを示している。

まだ年数は浅いが、その資料の抜粋をまとめ、県立松江ろう学校の乳幼児療育の状況をお示しし、考察を加えた。

### I. 島根県の新生児聴覚スクリーニング

1. 検査実施医療機関と受検児（図1） 島根県内では2001（平成13）年より実施機関があり、翌年には7医院になった。県の健康推進課が実態調査を開始した2007年度には分娩取扱い機関23ヶ所中12ヶ所（52%）が実施し、県内出生数5,552人中1,453人（26%、実施機関での出生児の69%）が受検した。

2010年度は21ヶ所中20ヶ所が実施、県内出生数

Nobuo IZUMI et al.

1) 出雲市立総合医療センター小児科

2) 島根県立松江ろう学校 教諭・乳幼児教育担当

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613